

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第711号 平成26年3月28日

コミュニケーションの要諦（1）

先日、コミュニケーション術に関する研修会に参加しました。講師は「E-C o m w o r k s」代表の山本衣奈子氏で、彼女は大学時代演劇を学んだというだけあって、豊かな表情と躍動感のある話しぶりに引き込まれました。

また、研修は、講師が一方向的に話すのではなく、受講者の参加意欲を高めながらテンポ良く話を進めて行くあたりは、流石だと思いました。

さて、コミュニケーションというのは、キャッチボールにもたとえられるように、人と人とを繋げていくための力といえます。

私達は様々な人との関わりなしには生きて行けません。従って、コミュニケーション能力は人が生きて行く上で必須の能力といわねばなりません。現実には、他者とコミュニケーションを取る事を苦手としている人が少なくありません。

こうした現状に対して山本講師は、人間関係はそもそもそんなに難しいものではないのだけれども、それを難しくしているのは、他者とのコミュニケーションを難しいと感じている人自身の中に、難しいとしている要素があるからだと述べています。

私自身、さほどコミュニケーション能力があるとは思っていませんが、そういう私から見ても他者とのコミュニケーションが苦手という人は、話下手だとか話題がないとか、自分自身でネガティブな壁を作ってしまったケースが多いように感じています。

誰しも、目上の人や知らない人と話をするのは緊張するものですが、他者とのコミュニケーションが苦手という人程、初めから身構えてガチガチに固まってしまい、本来の自分を表現する事が出来ない様です。この様に、他者の前だと普段の自分が出せないという方は、自分にはコミュニケーション能力がないという思い込みが自分自身を縛ってしまっているのかも知れません。

これに対して山本講師は、コミュニケーションの大前提は、「当たり前前を当たり前前にする事」であると喝破しています。彼女によると、これまで沢山の企業やオフィスを見て回った結果、世の中には様々な職場があるけれども、それを分類すると「生き生きカンパニー」と「どんよりカンパニー」という2種類の職場しかないといえます。そして、「生き生きカンパニー」に共通しているのは、決まって「笑顔」

「挨拶」「声掛け」が徹底しているのに対して、「どんよりカンパニー」の方は「そんな事いわれなくても分かる」「いわなくてもわかるだろー」といった言葉が飛び交っていると指摘しています。

他人の気持ちを「察する」等というのはなかなか難しい事であり、「いわない事は分からない」というのが普通の事だと思います。ですから、他者とのコミュニケーションを取るためには自分の思いを「声に出して伝える事」が全ての始まりであり、大原則であるといってもよいでしょう。（塾頭：吉田 洋一）